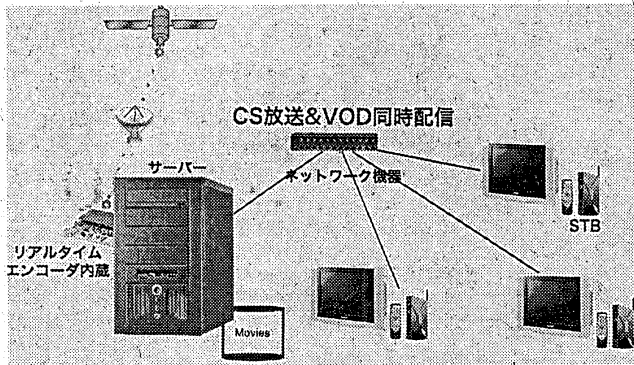


CSとVODの融合システム開発

日本ビデオセンター



ハイブリッド視聴システム「メカロポリスシアター」のイメージ図

同一端末で視聴可能

宿泊施設
向けに提案
初年度100室めざす

映像配信サービスの日本ビデオセンター(本社名古屋市中村区井深町一ノ二、近藤忠美社長、電話052・451・7205)は、CS放送とVOD(ビデオ・オン・デマンド)サーバーを融合させたハイブリッド映像システム「メカロポリスシアター」を構築した。独自開発のVODサーバーにより、信号の異なるCS放送の映像が同一画面で視聴可能になり、ひとつの課金システムで対応できる。すでに名古屋市内のビジネスホテルが七月に導入している。直営と代理店の併売により、宿泊施設向けに初年度千室強の導入を目指す。(清水裕志)

追加投資、100室で380万円

衛星を使って受信するCS放送と、好みの映像を選択して視聴するVODは信号が異なる。このためホテルは、いずれかのシステムを客室に導入するのが一般的だった。開発したVODサーバーは、エンコーダーでCS放送のアナログ映像データを圧縮し、信号をデジタル化して客室に送る。テレビ番組を含め、選択はリモコン一つで容易に操作できる。同一の画面で視聴が可能になり、

衛星を使って受信するCS放送と、好みの映像を選択して視聴するVODは信号が異なる。このためホテルは、いずれかのシステムを客室に導入するのが一般的だった。開発したVODサーバーは、エンコーダーでCS放送のアナログ映像データを圧縮し、信号をデジタル化して客室に送る。テレビ番組を含め、選択はリモコン一つで容易に操作できる。同一の画面で視聴が可能になり、

CS放送の年間番組本数は千四百本あまりと豊富な反面、番組が時系列なため視聴に制限を受ける。一方のVODはホテル側が配信会社と作品契約を結んでいるため、ジャンルや作品数にも限りがある。契約本数の少ないホテルの場合、長期の連泊者の期待に沿えないといったケースもあるという。

ホテルの多くはCS放送の受信装置を導入しており、エンコーダーとVODサーバーで百室で三百八十万円の追加投資で済む。ビジネスホテルの稼働率には価格に加え、サービスの充実が不可欠とされる。費用対効果を明確に示し、オーナー向けに提案を強め、初年度にす

名古屋経済ワイド面